

# 「めだか大学通信17号」2013/07/04

岡田京子

今、めだか大学で取り組んでいるのは次の三つの「置き換え」です。

『あんたがたどこさ』の置き換え

16号にも出したように、「にんじん畑」も「つくり小屋」一緒にやった替え歌作りは、今のところ16号最後の山田三重子さんの2曲を入れて16曲になりました。16号にも書きましたように、「現代の自分の発想で置き換えてみるのも伝承の第1歩」と思いますので、まだの方は試みてください。

『私たちのアリラン』の置き換え

作者であるふぁりょんさんの歌を覚える。

自分の詞（言葉）で書いてみる。そして歌ってみる。

その詞に改めて曲をつけてみる。

こういう段取りを重ねて、みやけさんが作った『わたしの女川』は、たくさんの発見をもたらしてくれました。その並びで、太鼓の集団「鼓童」の研修所17歳～25歳の15人の若者に試してみて、やはり同じ驚きがありました。それは、一つの国の文化の在り方や、その流れの歴史さえ感じさせられるもので、

「生命記憶」につながるものと思えます。

「ハムケうたの会」でも本当に、ふぁりょんさんが「その人の匂いや息遣いを感じさせる」といわれる詞がたくさんたくさん作られました。「めだか大学」でも試してみる必要を感じています。そして「めだか大学」は、これをもうひとつ置き換えて作曲してみましよう。発端を作ってくれたふぁりょんさんに感謝です。

『ふるさと藤枝』の置き換え

静岡は藤枝の大石さきさんの『ふるさと藤枝』が今活躍を始めています。

すでにみなさんにお話しして来ましたが、これも大石さんの了解を頂いて、それぞれの所の歌を作っていきたいと思っています。今までの所、すでに群馬県邑楽郡の木本洋子さん作の『往還音頭』と、これも小池さんの『集う街・石神井』の二つが出来ています。そして『だいじょうぶ』のように、座っていても立っても出来る振り付けを、村上さんが残していつてくれましたので活用したいし、単なるご当地ソングではない、みんなの町や村を歌う運動にして行きたいものです。資料は次の会に持って行きます。

先月のうた小屋でも踊ってみました。うた小屋は、練習したい歌を持ち寄ってください。自分の歌でも他の人のうたでもかまいません。いずれ作った歌たちが、みんなの役に立って行くように育てあえることを願っています。

